



博物館  
Museum  
☎ 68-1881

## 【正月の遊び・すごろく】



お正月に楽しむことの多い「すごろく」。日本のすごろくには「盤双六」と「絵双六」がありました。盤双六は、奈良時代には中国から伝来したと言われ、NHK 大河ドラマ「光る君へ」でも度々登場した白黒の石を使用するもの。絵双六は、江戸時代に広まった、サイコロで出た数の分だけ自分のコマを進めて上りを目指すもので、いわゆる今日のすごろくです。

絵双六は元々、出世を目指すものや、極楽浄土を目指す図案が多かったことから運試しの要素と結びつき、いつしか「その年の運試し」として正月に遊ばれるようになったそうです。

博物館のすごろくは、「商売繁盛双六」（昭和9年）。蒲郡の昔の商店が鮮やかに描かれた珍しいものです。新年の運試しにいかがですか？



## おかしのあそび 体験コーナー

福笑い・すごろく・めんこ・こま・けん玉・野球盤ゲームなど昔なつかしいおもちゃを楽しむコーナーです。親子で遊びにきてください。

とき 1月5日回～26日回

ところ 1階エントランスホール



竹島水族館  
Aquarium  
☎ 68-2059

館長の  
ひょうたん



小林 龍二

リニューアルのメインは、新しくできた深海大水塊水槽（強そうな名前！）がメインですが、今までの水族館側もいろいろと変化した部分があります。その一つがサンゴの水槽です。今までチケット売り場だった部屋を改造して水槽を設置しました。実はサンゴの飼育は魚よりも神経を使います。

私が初めてサンゴを飼育したのは25年前の高校3年生の時です。自分で繁殖させた熱帯魚をペットショップに持っていき、その戦利品としてサンゴを入手し、自宅で飼育を始めました。サンゴの長期的な飼育は最上級に難しいと言われていた時代で、何度やってもうまくいきません。その後、竹島水族館に就職し、初任給で180リットルほどの水槽を買い、自宅で試験的にサンゴを飼うことを続けました。「小林さんの家は玄関にサンゴ礁がある」と近所で話題になったことも。しかし水質や照明、水換え頻度など不明な点ばかりで、少しでも長く飼っているマニアの方の水

槽を見せてもらったり、本を読んだり地道に勉強しました。ある程度実力をつけてから、水族館にサンゴを導入しようとしたのですが、当時はお金も設備も時間もなく、先輩たちも挑戦しては失敗していたので許可はもらえませんでした。サンゴ水槽を作ればお客さんは釘付けになると確信はあったので、反抗的に半ば勝手に始めたりしました。今思うとサンゴよりも管理がしにくい新人飼育員だったと思います。

そんな思い入れのあるサンゴですが、今ではデータが揃い、やるべきことをやれば長期飼育は夢ではありません。魚のように泳ぎ回りはしませんが、私にとっては非常に可愛い大切な生き物です。



そうか！君にもサンゴの素晴らしさが分かるかね！